

平成22年度(2010年度)ホンモロコ秋季小糸網漁獲物調査結果

三枝 仁

1. 研究目的

ホンモロコの漁獲が減少しており、種苗放流による資源回復対策を実施している。一方、近年では琵琶湖北湖東岸において、秋季にホンモロコの小糸網漁場が形成されている。そこで、秋季の小糸網漁獲における種苗放流の寄与状況を明らかにするため、漁獲物調査を行った。

2. 研究方法

平成22年11月1日および11月15日に北湖東岸の野洲川沖、須越沖(図1)で小糸網により漁獲されたホンモロコ計860尾を収集し、体型測定と鱗の観察による年齢査定および耳石標識の確認を行った。

3. 研究結果

収集した860個体のうち、1歳魚(2009年級)は1個体のみで、その他は全て当歳魚(2010年級)であり、秋季の小糸網では主に当歳魚が漁獲されていた。漁場別の収集尾数とサイズは、野洲川沖が415個体 78.41 ± 3.60 mm(平均体長±標準偏差)、須越沖は445個体 83.50 ± 3.09 mmであった。

漁場別の標識魚混獲状況は、野洲川沖では大津市小野と南湖に放流した全長20mm種苗

がともに2個体で、他に伊庭内湖に放流した全長30mm種苗が1個体含まれていた。須越沖では、彦根市南三ツ谷の水田で育成した全長20mm種苗が最も多く18個体再捕され、次いで発眼卵放流魚が8個体、伊庭内湖に放流した全長20~50mmの種苗が計4個体含まれていた(表1)。



図1. 漁獲地点と種苗放流地点

表1. 2010(平成22)年度ホンモロコ秋季小糸漁獲物調査結果

年級群	種苗種別	放流場所	放流尾数 (千尾)	採捕尾数(尾)		合計 (尾)
				野洲川沖	須越沖	
2009年級	無標識				1	1
	無標識			410	414	824
	発眼卵放流魚	小野、伊庭内湖、松ノ木内湖	17,110		8	8
	20mm種苗	小野	66	2		2
2010年級	20mm種苗	南湖	117	2		2
	水田育成20mm	南三ツ谷	143		18	18
	20mm種苗	伊庭内湖	198		1	1
	30mm種苗	伊庭内湖	182	1	2	3
	50mm種苗	伊庭内湖	62		1	1
計				415	445	860